

モニタリング結果報告書 (令和元年度)

1. 施設概要

施設名	神奈川県総合リハビリテーションセンター		
所在地	厚木市七沢5-1-6		
サイトURL	http://www.kanagawa-rehab.or.jp		
根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため(昭和48年4月)		
指定管理者名	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間	H28.4.1～R8.3.31 (2016年)～(2026年)	施設所管課 (事務所)	県立病院課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
評価については、利用状況はB、利用者の満足度がS、収支状況がAであったことから、3項目評価はA評価とした。今後は、再整備した施設を有効活用することにより、更なる改善を進めていくことができるものと考えている。	
<各項目の詳細説明>	
◆管理運営等の状況 令和元年7月に全ての再整備工事が完了し、正面玄関が開通したことに伴い休日・夜間は正面玄関以外を電気錠により施錠するなどセキュリティの強化を図っており、引き続き適切な管理運営が行われている。また、「さがみロボット産業特区」における実証実験期間として、引き続き県施策との連携を図っている。	
◆利用状況 施設ごとにばらつきが見られるものの、利用状況は昨年度とほぼ同水準となっており、実績を踏まえB評価とした。(S評価が2区分、A評価が0区分、B評価が5区分、C評価が3区分)。	
◆利用者の満足度 施設により9月～11月のいずれかで実施した。概ねS評価となっているため、S評価とした。	
◆収支状況 収支比率が101.68%となったため、A評価とした。	
◆苦情・要望等 概ね利用者に理解を得られるような対応がとられている。	
◆事故・不祥事等 施設利用中の利用者の骨折事故等が数件発生している。	
◆労働環境の確保に係る取組状況 エックス線に係る業務等について労働基準監督署からの指摘事項があった。法令遵守の徹底を図る必要がある。	
◆その他 特になし	
3項目評価	S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう
A	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	随時	
随時モニタリングにおける指 導・改善勧告等の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
1 重点方針 (1) 高度専門性の発揮	<p>リハセンターの指定管理者として、民間の病院や社会福祉施設では対応が難しい重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供とリハビリテーションに関わる研究開発や地域のリハビリテーション活動を支える市町村等への支援のため、優秀な人材の確保と職員の資質の向上に取り組んでいる。特に職員の資質向上にあっては、学会や研修会の旅費及び参加費の費用について一定の支援を行っている。</p> <p>また、「かながわりハビリロボットクリニック」の取組として、企業や大学と連携しながら、筋電義手をはじめとしたリハビリ医療など治療・訓練効果の評価検証を行っている。なお、令和元年度の筋電義手の対象患者の相談件数は10件で、作業療法訓練や義肢装具の調整等を行っている。その他、昨年度から引き続き歩行アシスト装置等を活用した歩行訓練を行っており、52件の相談件数となっている。</p>	<p>民間では対応困難な重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供やリハビリテーションに関わる研究開発等に積極的に取り組んでいる。令和元年7月には全ての再整備工事が終了したところであり、セキュリティ強化を図るなど引き続き適切な管理運営が行われている。</p> <p>また、電子カルテシステムの導入に伴い、業務の効率化や迅速化、各部門間における相互連携強化、医療安全の向上などを図ることにより、医療サービスの充実に取り組んだ。</p>
(2) 収益の確保、効率化	<p>利用率の向上や診療報酬対策の強化等を実施し、自己収入の増を図るとともに事業費の効率的な執行により収入・支出双方の面から経営改善努力を行っているが、計画に対して、一部の施設で利用率や収入が達成できていない状況となっている。</p>	

(3) 病院・福祉施設の安全管理対策の強化	病院・施設の安全管理強化のため、病院の正面玄関開通後は、休日や夜間は正面玄関を除き電気錠等による施錠を行い、セキュリティ強化を図った。また、福祉施設において、地元自治会の地域の防犯パトロール（8月25日 玉川地区）に参加し、協力体制や情報共有など意見交換を行った。その他に地元警察の防犯研修（11月21日）に参加した。	
(4) 電子カルテ・オーダーリングシステムの導入	電子カルテ・オーダーリングシステムを令和元年7月1日に導入し、稼働当初はシステム操作や運用に不慣れなため、利用者に負担をかけたこともあったが、現在は概ね順調に進んでいる。今後は、待ち時間の減少等利用者サービスの向上を進め、業務の効率化、軽減を目標として取り組んでいく。	
2 事業計画 (1) 病院機能の充実 (7) リハビリテーション機能の充実	脊髄障害、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、骨・関節疾患（変形性股関節症等）、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患（小児の高次脳機能障害、急性脳症後遺症等）、合併症を持つ重度身体障害者などに対するリハビリテーション医療（診断、評価、治療、看護、リハビリテーション訓練等）を提供し、入院患者数は、延85,727人（実入院患者数1,164人）で、一日平均の入院患者数は234.2人（一日平均入院率83.6%）であった。退院患者数は、1,191人で、家庭復帰が1,051人（88.2%）と最も多く、次いで施設入所86人（7.2%）、転院52人（4.4%）、死亡2人（0.2%）となっている。外来患者数は、延55,126人（一日平均226.9人）で、内訳は、初診が2,405人で再診が52,721人であった。	近隣医療機関等との連携により、紹介・逆紹介の目標値を達成しており、リハビリテーション専門病院としての機能の充実を図っている。
(イ) 地域との連携強化	近隣医療機関等との連携により、患者の紹介件数は1,194件、逆紹介件数は1,583件となっており、紹介件数の目標値1,000件、逆紹介件数1,300件を達成している。	
(ウ) 患者の視点に立った病院経営	患者にとってわかりやすい医療を提供し、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図るとともに、総合相談室において利用者からの要望・苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施し、目標値を達成することができた。	
(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善	入院審査の迅速化を実施し、待機患者の期間短縮に取り組み、患者確保を強化した。また、令和元年度は電子カルテシステムの導入初年度であり職員の負担が大きくなってしまったが、今後は効率的な運営を行うとともに経営分析に活用していく。	

<p>(2) 福祉機能の充実</p> <p>ア 七沢学園</p> <p>(7) 施設機能の充実</p>	<p>福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和元年度の利用者数は、入所が13人、退所が10人、一日平均入所者数は28.0人で、一日平均入所率は93.5%であった。</p> <p>また、虐待等の措置入所のほか、短期間（1ヵ月～6ヵ月）の施設入所を通して、ADL（日常生活動作）の評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込み「集中療育」を実施しており、令和元年度は入所定員30名のうち2名枠を設けて、利用者実人数は18名であった。</p> <p>障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が12人、退所が11人、一日平均入所者数は27.0人で、一日平均入所率は90.0%であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行っており、一日平均利用者数は19.8人、一日平均利用率は104.2%であった。</p> <p>自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は13.0人、一日平均利用率は76.7%であった。</p>	<p>第三者からなる苦情解決委員による相談日を毎月設け、苦情に対して適切に対応しており、満足度調査においても目標を達成している。</p>
<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ912人、知的障害児通所機関巡回指導を69回実施した。児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会性拡大を目的とした施設体験などの支援も行った。児童利用者実人数316人、延べ人数845人、成人利用者実人数326人、延べ人数1,105人の合計延べ人数1,950人を受け入れた。その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数9人、延べ人数91人であった。</p> <p>なお、地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活介護の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供した。実人数49人、延べ人数708人を受け入れた。</p>	

(ウ) 利用者の視点に立った施設運営	<p>第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。満足度調査の結果は目標値を達成している。</p>	
(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善	<p>七沢学園児童については、家庭復帰が困難な利用者が障害者支援施設等に移行した結果、施設入所による退所が一定数生じ、目標値の達成ができなかった。強度行動障害児受入者数は延べ144人で、集中療育の利用者実人数は18人であった。</p> <p>七沢学園成人については、生活訓練事業において地域移行を着実に支援することができ、家庭復帰率の目標を達成することができた。強度行動障害者受入者数は延べ1,830人で、医療重度受入者数は延べ1,825人であった。</p>	

<p>イ 七沢療育園</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に治療や健康管理などの医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。主治医である小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師と共に日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。今年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は50人であった。</p>	<p>重度の長期入所者に加え、中短期入所により、在宅重症心身障害児(者)の支援を積極的に行った。</p>
<p>(イ) 地域への支援と連携強化</p>	<p>「在宅重症心身障害児(者)療育訪問指導事業」は延べ5人に実施した。また短期入所事業では、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的などで実人数198人に対し延べ1,154日の短期入所を提供した。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。満足度調査は、令和元年度の目標を達成した。</p>	
<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>令和元年度の入所事業は81人を受入れ、79人が退所した。また、一日平均入所者数は35.9人で、一日平均入所率は92.0%で目標に届かなかった。</p>	

<p>ウ 七沢自立支援ホーム</p> <p>(7) 施設機能の充実</p>	<p>七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。</p> <p>肢体不自由者については、神奈川リハビリテーション病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。</p> <p>退所後の家庭復帰・就学・就労の実績は令和元年度の目標を達成できた。</p>	<p>神奈川リハビリテーション病院と連携し、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、リハセンターの特色である医療と福祉の連携に寄与した。</p>
<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数28人、延べ1,031人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。</p> <p>更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、令和元年度は16件であった。</p> <p>また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数72人、延べ392人の受入れを行った。</p> <p>その他に受託評価事業では、肢体不自由児(者)を対象とし、支援学校(支援学級)在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハビリテーション病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、令和元年度の利用者数は実人数13人、延べ60人であった。また、県内の盲学校等に在籍する視覚障害児者を対象に神奈川リハビリテーション病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は実人数5人、延べ20人であった。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員により、七沢自立支援ホームについては月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p>	
<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>令和元年度の肢体不自由者の施設入所支援の利用者数は、入所が37人、退所が36人、一日平均入所者数37.0人で、一日平均入所率は92.5%であった。また、日中活動支援の自立訓練(機能訓練)は一日平均利用者数が36.2人、一日平均利用率は86.1%であった。</p> <p>一方、中途視覚障害者の施設入所支援の利用者数は、入所が8人、退所が12人、一日平均入所者数5.4人で、一日平均入所率は54.3%であった。また日中活動支援の自立訓練(機能訓練)は一日平均利用者数が9.2人、一日平均利用率は51.0%であった。</p>	

<p>(3) 調査、研究・開発事業</p>	<p>障害者等の自立促進を目的に、リハビリテーションに関する調査、研究・開発を行っている。また、これらの成果物を対外的に発信する中で、障害者スポーツの普及に取り組んでいる。</p> <p>リハビリテーションに関する調査、研究・開発については、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立、 2) 障害発生の除去、修復メカニズムの解明、 3) 障害者の自立促進のための研究 <p>の3つの視点に、医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取り組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。</p> <p>調査、研究、開発成果の例としては、 脊髄損傷者が退院後の生活で水回り（トイレ、浴室、脱衣、洗面、キッチンなど）にどのような配慮を必要としており、それぞれどのように工夫し生活しているかを協力企業とともに実施した調査研究がある。成果として、協力企業とともに脊髄損傷者に対する水回りのプラン集を令和2年度に提案する予定である。</p> <p>その他、厚生労働省補装具費支給制度に新たに登録するための座位保持装置・完成用部品のフィールド評価を民間企業から依頼を受け、実施している。</p> <p>また、障害者スポーツに関連した開発として、これまで当院で開発し普及啓発に携わってきた障害者スキーのフィールドで小児を対象としたニーズが近年拡大していることを考慮し、小学生以下が搭乗することがきるシートと子供の体重に対応したサスペンションやリンク機構を搭載した子供用チェアスキーを令和元年度に製作した。</p> <p>さらに、変形性股関節症や脊髄損傷に関する製薬会社の治験について、研究部が院内のコーディネイトを行った。</p> <p>かながわりハビリロボットクリニックでは筋電義手の処方、訓練などを通じた筋電義手の普及に向けた取組、ロボットリハビリテーションの実施、企業・大学研究室への開発支援を行った。また、さがみロボット産業特区における実証実験の受入調整を行った。</p> <p>情報サービス事業では、図書、文献、資料等の収集・提供、医学・研究等のフォトサービス、研究会や講演会における機材の貸出し、また医療・福祉情報の集積や調査を行った。図書関係については、高度専門性を維持・発展させるため、常に最新の情報や知識の提供ができるように定期購読誌78タイトルを購入し図書室専門書の充実を図った。</p> <p>神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会を開催した。（一般演題24題、ポスター発表4題）研究成果を情報発信するとともに、関連の専門分野学会等において発表を行った。</p>	<p>前年度と同様に関係機関と連携した臨床的・実証的な調査・研究等を継続して実施した。また「かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）」において、筋電義手をはじめ、リハビリロボットに関する専門的な相談に対応するなど、障害者のADLやQOLの向上に寄与した。</p>
-----------------------	--	--

<p>(4) 地域へのリハビリテーション支援事業</p>	<p>地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための業務を全県的な立場で行った。</p> <p>地域支援室では、リハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業を行った。</p> <p>県委託事業に関してはリハビリテーション情報の提供、人材育成、関係機関の連携を推進する業務を行った。</p> <p>また、高次脳機能障害支援普及事業(国事業)の神奈川県内の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行った。</p> <p>リハビリテーション専門研修は、医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、二つの県委託事業を除き令和元年度は26コースの研修を実施した。受講者延数は、外部受講者731名、事業団職員45名で総受講者延数は776名であった。</p> <p>地域リハビリテーション支援関連活動として次の活動を行った。</p> <p>ア「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」政令市のリハセンターとの連絡会(3回)</p> <p>イ地域医療介護連携会議等への参加</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「厚愛地区医療介護連携会議」への出席(6回) 2) 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」、「横須賀地域小児在宅医療連絡会」への出席(2回) 3) 「自立支援協議会」(県、保健福祉圏域、市町村)(9回) <p>ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力(8回)</p> <p>神奈川県リハビリテーション支援センター事業(県委託事業)として次の活動を行った。</p> <p>リハビリテーションの相談対応件数は300件、ホームページへのアクセス総数は45,829件、SNSへのアクセス総数9,610件であった。</p> <p>リハビリテーション従事者、利用者やその家族を対象とした研修を2回実施した。</p>	<p>前年度と同様に、地域リハビリテーションシステムの構築のための取組を継続して実施した。また、引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証実験機関として、県施策と連携した取組を実施した。</p>
------------------------------	--	--

	<p>高次脳機能障害支援普及事業として次の活動を行った。</p> <p>ア 相談支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別支援 (256件) 2) 巡回相談事業 (6種) <p>イ 普及・啓発</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修会の開催 (1回) 2) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会 (1回) <p>ウ 研修関係事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修会の開催 (3回) 2) 県内研修会への講師派遣 (10回) 3) 事例検討会 (6回) 4) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会 (2回) <p>エ 国との連携：全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議 (2回)</p> <p>オ その他の関連事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 連携構築 <ol style="list-style-type: none"> ①政令指定都市との連携 (2回) ②自立支援協議会との連携(15回) ③当事者団体との連携 (センター内に協働事業室を設置)
--	---

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等

5. 利用状況

(1) 七沢学園（児童・入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	10,299	10,044	10,262
対前年度比		97.5%	102.2%
目標値	10,731	10,731	10,731
目標達成率	96.0%	93.6%	95.6%

目標値の設定根拠： 令和元年度は1日あたり29.4人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(2) 七沢学園（児童・地域支援（短期入所、家族短期、家族一日））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
S	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	785	704	845
対前年度比		89.7%	120.0%
目標値	720	720	720
目標達成率	109.0%	97.8%	117.4%

目標値の設定根拠： 令和元年度は短期入所を延べ720人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(3) 七沢学園（成人・入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	10,602	10,546	9,886
対前年度比		99.5%	93.7%
目標値	10,194	10,194	10,194
目標達成率	104.0%	103.5%	97.0%

目標値の設定根拠： 令和元年度は1日あたり27.9人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(4) 七沢学園（成人・地域支援（短期入所））

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	948	1,078	1,105
対前年度比		113.7%	102.5%
目標値	1,380	1,380	1,380
目標達成率	68.7%	78.1%	80.1%

目標値の設定根拠： 令和元年度は短期入所を延べ1,380人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(5) 七沢療育園（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	13,059	13,064	13,125
対前年度比		100.0%	100.5%
目標値	13,807	13,807	13,807
目標達成率	94.6%	94.6%	95.1%

目標値の設定根拠： 令和元年度は1日あたり37.8人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(6) 七沢療育園（地域支援（短期入所、重心親子教室、療育訪問指導））

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
S	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	1,093	1,106	1,154
対前年度比		101.2%	104.3%
目標値	700	700	700
目標達成率	156.1%	158.0%	164.9%

目標値の設定根拠： 令和元年度は短期入所を延べ700人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(7) 七沢自立支援ホーム（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。
B	社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	15,871	15,526	15,532
対前年度比		97.8%	100.0%
目標値	17,173	17,173	17,173
目標達成率	92.4%	90.4%	90.4%

目標値の設定根拠： 令和元年度は1日あたり47.0人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(8) 七沢自立支援ホーム（地域支援（短期入所、通所、受託評価））

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。
C	社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	456	495	472
対前年度比		108.6%	95.4%
目標値	1,372	1,372	1,372
目標達成率	33.2%	36.1%	34.4%

目標値の設定根拠： 令和元年度は短期入所を延べ1,372人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(9) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S : 110%以上 A : 100%以上～110%未満 B : 85%以上～ 100%未満 C : 85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値(定員数等)があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	92,726	91,848	85,727
対前年度比		99.1%	93.3%
目標値	91,980	91,980	91,980
目標達成率	100.8%	99.9%	93.2%

目標値の設定根拠： 令和元年度は1日あたり252人とした

利用者数の算出方法(対象)： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(10) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S : 110%以上 A : 100%以上～110%未満 B : 85%以上～ 100%未満 C : 85%未満 目標値を設定していない場合は対 前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目 標値」欄に代わりとなる数値(定員数等)があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	61,898	60,076	55,126
対前年度比		97.1%	91.8%
目標値	87,900	73,200	73,200
目標達成率	70.4%	82.1%	75.3%

目標値の設定根拠： 令和元年度は1日あたり300人とした

利用者数の算出方法(対象)： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

(1) 七沢学園（児童・成人）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和元年11月11日～令和元年11月29日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 安心した生活、プライバシーの保護、相談事への対応、施設の印象等

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 43 / 44 = 97.7%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	24	7	5	2	38	献立の工夫をもっとしてもらいたい
回答率	63.2%	18.4%	13.2%	5.3%		
前年度の回答数	28	7	4	3	42	
前年度回答率	66.7%	16.7%	9.5%	7.1%		
回答率の対前年度比	94.7%	110.5%	138.2%	73.7%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(2) 七沢療育園

評価	≪評価の目安≫ 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上～90%未満 B:50%以上～70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和元年10月1日～令和元年10月25日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 施設のルール、行事・活動・食事、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 郵送 回収数/配布数 31 / 34 = 91.2%

配布(サンプル)対象 長期利用者の家族(保護者等)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があつた場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	28	3	0	0	31	催しが工夫されていて親子ともに楽しく参加させてもらっている
回答率	90.3%	9.7%	0.0%	0.0%		
前年度の回答数	22	4	1	0	27	
前年度回答率	81.5%	14.8%	3.7%	0.0%		
回答率の対前年度比	110.9%	65.3%	0.0%	-		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(3) 七沢自立支援ホーム

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和元年9月9日～令和元年9月20日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 施設のルール、集団生活、行事、施設設備、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 個別配布、聞き取り 回収数/配布数 40 / 54 = 74.1%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があつた場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	27	9	2	1	39	プロ集団という意識を感じられ、とてもよくしてもらっている
回答率	69.2%	23.1%	5.1%	2.6%		
前年度の回答数	18	15	8	2	43	
前年度回答率	41.9%	34.9%	18.6%	4.7%		
回答率の対前年度比	165.4%	66.2%	27.6%	55.1%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(4) 神奈川県リハビリテーション病院 (入院)

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間:令和元年9月24日~令和元年10月4日

[サービス内容の総合評価]

質問内容 病院全般の満足度、施設職員の対応 等

実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 151 / 183 = 82.5%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があつた場合はその理由
サービス内容の総合評価の回答数	102	19	6	2	129	リハビリ専門病院で設備も新しくなり以前より改善されている。
回答率	79.1%	14.7%	4.7%	1.6%		
前年度の回答数	111	40	8	2	161	
前年度回答率	68.9%	24.8%	5.0%	1.2%		
回答率の対前年度比	114.7%	59.3%	93.6%	124.8%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(5) 神奈川県リハビリテーション病院（外来）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和元年11月25日～令和元年11月29日

[サービス内容の総合評価]

質問内容 病院全般の満足度、施設職員の対応 等

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 329 / 495 = 66.5%

配布(サンプル)対象 外来患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があつた場合はその理由
サービス内容の総合評価の回答数	199	75	7	1	282	個別性をもって心を込めて対応していただきます。
回答率	70.6%	26.6%	2.5%	0.4%		
前年度の回答数	161	114	20	5	300	
前年度回答率	53.7%	38.0%	6.7%	1.7%		
回答率の対前年度比	131.5%	70.0%	37.2%	21.3%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105% 未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に 15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計		支出	収支差額
前々 年度	当初 予算	3,228,752	4,462,970	38,679	備考のとおり	7,730,401	7,730,401	0	
	決算	3,202,320	4,315,177	42,476	備考のとおり	7,559,973	7,509,672	50,301	100.67%
前 年度	当初 予算	2,962,777	4,397,378	34,608	備考のとおり	7,394,763	7,394,763	0	
	決算	2,952,367	4,534,527	38,547	備考のとおり	7,525,441	7,458,403	67,038	100.90%
令和元 年度	当初 予算	3,002,339	4,375,079	37,236	備考のとおり	7,414,654	7,414,654	0	
	決算	2,988,168	4,268,988	32,572	備考のとおり	7,289,728	7,169,478	120,250	101.68%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和元年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

前々年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,961 (決算) 4,945 その他の収入：(当初) 15,522
(決算) 23,760 長期貸付金回収収入：(当初) 6,249 (決算) 3,676 こども園使用料・給食費・
補助金収入：(当初) 11,947 (決算) 10,095

前年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,848 (決算) 4,114 その他の収入：(当初) 15,040
(決算) 18,118 長期貸付金回収収入：(当初) 3,641 (決算) 5,651 こども園使用料・給食費・
補助金収入：(当初) 11,079 (決算) 10,663

令和元年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,848 (決算) 3,708 その他の収入：(当初)
16,093 (決算) 17,626 長期貸付金回収収入：(当初) 3,641 (決算) 5,392 こども園使用料・給
食費・補助金収入：(当初) 12,654 (決算) 5,846

8. 苦情・要望等 該当なし

(1) 七沢学園 (児童・成人)

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	件		
	相談	件		
職員対応	苦情	件	入所生活・外泊時のことを職員・第三者委員の方に相談。	話を傾聴し、助言等をした
	相談	9 件		
事業内容	苦情	件	ななさわフェスティバルの相談。 退所後の就労に関する相談。	話を傾聴し、助言等をした。
	相談	16 件		
その他	苦情	件		
	相談	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(2) 七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	件		
	相談	件		
職員対応	苦情	3 件	外出から帰園後の体調変化の情報は家族に提供して欲しい。	外出機会が多い利用者などは連絡ノートなどを個別に検討して行く。
	相談	2 件		
事業内容	苦情	件		
	相談	件		
その他	苦情	件		
	相談	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(3) 七沢自立支援ホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	2 件	浄水器を設置することを検討してほしい。	水質に問題がないことを説明し了解を得た。
	相談	3 件		
職員対応	苦情	4 件	外泊後、家族がインフルエンザであることがわかり、2日間隔離された。検査をして陰性なら通常の部屋へ戻してほしい。	職場内で意見があったことを周知した。
	相談	8 件		
事業内容	苦情	1 件		
	相談	6 件		
その他	苦情	1 件		
	相談	9 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(4) 神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	16 件	<ul style="list-style-type: none"> ・正面玄関に屋根がないため雨天時に濡れる。 ・トイレの手洗後のペーパーがない。 	雨天時の乗降場所を確保し対応した。 費用の面から設置しない方針としてしていると回答した。
	要望	34 件		
	感謝	1 件		
職員対応	苦情	29 件	会計の待ち時間が長い。	改善に努めると回答した。
	要望	2 件		
	感謝	8 件		
事業内容	苦情	18 件	内科にかかっているが11時の予約が1時間以上待つので、もっと早くしてほしい。	その日は、予約患者数が多く、また血液検査や他科受診をする患者さんも多くいる状況であった。このような中、内科常勤医師1人体制で外来診療の対応にあっていたこともあり時間を要した。内科常勤医師は1人増員し2人体制になることを説明した。
	要望	8 件		
	相談	1 件		
その他	要望	2 件	車窓から病院周囲の雑草が気になる。	雑草の対応は駐車場工事と並行して行うと回答した。
	その他	1 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
6月24日	【七沢療育園】 ① 令和元年6月24日5時のオムツ交換時に右足底部に小さな内出血斑があるのを職員が発見した。腫れや熱感はなく様子観察とした。 ② 6月27日文書報告 ③ 6月25日に小児科主治医が診察し、経過観察の指示があった。本人には変わった様子はなかった。6月27日、右足底部の内出血斑部に腫れが見られた。6月27日に短期入所退所のため同日に神奈川リハビリテーション病院整形外科に診察依頼した。レントゲン検査の結果、右足第1中指骨骨折の診断だった。本人は立位をとらないためシーネ固定等は行わず保存的加療となった。 本人の生活状態は個室内ではマット上をほふく移動、タオルいじり等を行っている方だった。車いす乗車は二人介助で、車いす乗車時は自力移動困難だった。 多動や強い不随意運動を伴う利用者や自力姿勢変更等が可能な利用者については、日頃より環境設定の確認を行うと共にボディチェックを行いケガの予防や早期発見、早期治療に努めるようにする。 ④ なし ⑤ 介助中及び観察中に骨折原因となる対応や行為はみられなかったため不明である。費用負担はない。 ⑥ なし
7月23日	【七沢学園】 ① 7月23日17時 車イスからポータブルトイレに移乗の際、右足第一趾に内出血が見られ、足の甲全体が腫脹していたことから、医務課看護師へ報告した。 同日17時15分看護師が診察し、打撲や蜂窩織炎の疑いが考えられることから、クーリングと経過観察の指示が出る。 ② 7月25日文書報告 ③ 7月24日6時30分再度看護師が診察し、腫脹の状態が変わらないことから外来受診につなげた。同日10時神奈川リハビリテーション病院整形外科を受診し医師の診察を受けた。レントゲン撮影した結果、右母趾基節骨骨折の診断を受ける。特に処置は不要で、このまま経過観察をするようにとの指示があった。 ④ なし ⑤ 今後は移乗時に足を引きずらない・ぶつけないように留意する。また夜間も排泄の際は、必ず靴を履いて対応する。費用負担はない。 ⑥ なし
11月19日	【七沢学園】 ① インフルエンザの罹患者が累計10名を超えた。西ユニット利用者が11月18日午後から発熱。翌日にA型と診断された。その後も同じ西ユニット利用者の他、東ユニット利用者も罹患し、合計東ユニット3名、西ユニット7名が罹患した。 ② 12月8日文書報告 ③ 11月18日に発熱した際に医務課看護師へ連絡。インフルエンザ疑いで隔離し、対応するユニット職員はマスク着用・手洗い・うがいを実施した。その後も同様に医務課へ連絡し、感染者対応を行った。マスク・手洗い・うがいの励行を再度確認し、特に消毒剤は各自が携帯できるタイプを配布し、体調が思わしくない職員は、必ず受診して医師の判断を仰ぐこと、来年のインフルエンザ予防接種は早い時期に行えるよう依頼することとした。 ④ なし ⑤ インフルエンザの流行が早く、予防ワクチンの到着が遅れ、11月19日に接種を行ったが、既に罹患者がおり、当該ユニット利用者に接種できなかった。また体調不良の職員が、受診をしないまま勤務してしまった。費用負担はない。 ⑥ なし

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	有	<p>(1) 労働安全衛生法第12条第1項 (労働安全衛生規則第7条第1項第5号) 常時500人を超える労働者を使用し、エックス線の業務に常時30人以上の労働者を従事させているにもかかわらず、衛生管理者のうち少なくとも一人を専任の衛生管理者としていないこと。</p> <p>(2) 同法第12条第1項 (同規則第7条第1項第6号) 常時500人を超える労働者を使用し、エックス線の業務に常時30人以上の労働者を従事させているにもかかわらず、衛生管理者のうち少なくとも一人を衛生工学衛生管理者免許を受けた者のうちから選任していないこと。</p> <p>(3) 同法第104条第2項 労働者の心身の状態に関する情報を適正に管理するために必要な措置を講じていないこと。</p>
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。